

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	3	学校名	蕨崎工業高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	349	名
スクールポリシー (学力に関するもの)	拓かれゆく未来科学に対応できる知識・技能・技術を持った自立的・創造的・実践的産業人を育成する。							
グラデュエーション ポリシー	ものづくりを通じて地域産業に貢献できる技術者の育成							

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ

<input type="checkbox"/> 自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/> 目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/> ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/> 文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> 授業や単元の始まりに生徒に達成させたい目標を設定・確認する 生徒が目標を達成するための学習方略を設定する 授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価する 生徒が自己の特性に応じて学びの方法を選択できるよう、様々な学び方を提示する 自分の考えを深めたり、新たな気づきと出合うために、対話的活動を取り入れる 授業や家庭学習でICT機器を効果的に活用する

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%) (各校の授業アンケートに基づく)	R7中間	R7末
1.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	93.6%	91.2%
2.目標を達成するための学習方法を選択し、積極的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	91.6%	91.3%
3.授業の中で目標達成に向けて学習活動に取り組んだ (①強くそう思う, ②そう思う)	93.1%	91.9%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.4%	89.1%
5.自分に合った学習方法を選択して積極的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	88.3%	86.7%
6.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	90.8%	90.3%
7.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	91.5%	90.7%
8.授業や家庭学習でICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	81.8%	82.0%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)

多くの項目で前期・後期ともに90%前後の高い肯定的回答が得られ、生徒が学習目標を理解し、意欲的に取り組む姿勢が定着していることがうかがえる。特に「授業の目標確認」「学習活動への積極的な参加」「振り返りを通した学習改善」では安定した成果が見られ、主体的に学ぶ学習態度が育っているものの、学校内での活動に限定されていることが課題である。一方で、ほぼ全項目で後期に数値がわずかに低下しており、学習の見通しや自己評価の質をより高める必要があると考えられる。また、「自分に合った学習方法の選択」(86.7%)や「ICT活用」(82.0%)は他項目と比べて低く、次年度の改善点となる。特にICTについては、目的に応じた使い方の指導や家庭学習との連携を一層工夫することが求められる。今後は、個別最適化された学習の質を高め、自己調整学習の定着をより確かなものにしていくことが課題である。

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組	
国語	社会生活の中で必要な言葉についての知識や情報の扱い方の基礎力が身に付いている。	4.0	3.9	漢字の読み書きや音載といった基礎的な力の定着を図るため、さまざまな文章に触れさせるとともに、漢字練習等の基礎的な学習に継続的に取り組ませる。	
	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力、伝え合う力が身に付いている。	4.0	3.9	発表や調べ学習、グループ学習など様々な言語活動を通して、考える力や伝え合う力の育成につなげていく。	
	言語感覚を磨き、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	4.0	3.9	日常生活における言葉遣いを意識させるとともに、社会的課題に関連した教材を扱うなど社会とのつながりを意識した表現活動を展開する。	
地公	地理・歴史・現代社会に関する基本的な知識を幅広く身につける。	4.1	4.0	広範な事象を単なる事実として暗記するのではなく、それらが相互に関連し合っていることを意識させたい。	
	現代の諸問題に関心を持ち、幅広い視点からその解決に向けて努力する態度を養う。	4.1	4.0	社会の諸課題を自分事として捉え、既存の価値観に縛られない多角的な視点ももてるよう授業展開を工夫していきたい。	
	人間としての在り方生き方についての自覚を深めることができる。	4.1	4.0	先人たちの思想や社会の変遷などに触れる、自己の価値観や生き方を考える機会を増やしていく。	
数学	事象を数学的に表現・処理する技能を身につけている。	3.9	3.8	年々生徒の理解度が低下しており、指導する側が生徒理解をしっかりと行う必要がある。	
	問題を解決したり、解決の過程や結果を考察し判断する力を身につけている。	3.9	3.9	生徒の学力が低く、基礎基本の充実のみに特化してしまいがちだが探求心を持たせるような指導も忘れず行いたい。	
	粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとしている。	3.9	3.9	生徒の理解度が低く、指導する側が粘り強く懇切丁寧に対応する気力を持つ必要がある。	
理科	科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する知識・技能を身につける。	4.0	3.9	身の回りの事象に当たり前と思わずに、新鮮な気持ちで臨み、なぜそのようになるのかを考える習慣をつけるよう誘導したい。	
	観察・実験などを行い、自然現象における規則性や関係性について科学的に探究することができる。	4.0	3.9	再現性のあることから、規則性を導けるよう、系統立てた実験を設定していきたい。	
	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って科学的に探究しようとする。	3.9	3.9	工業科目とも連携をとり、将来にわたって活用できる知識を意識させて授業を展開する。	
英語	英語の発音や単語、表現などについての基礎的な知識を身につけ、英語でコミュニケーションができる。	4.1	4.0	生徒自身が基本的な単語や動詞の活用を繰り返し使いつつ理解を深め、身につけた表現をいひのり取りの中で活用していく。	
	英語を使う場面、状況に応じて適切に表現を使うことができる。	4.0	4.0	ICTの活用や協働的な学びを通して、生徒が多様な表現に触れ、それらを自分の言葉として使いこなせるようにしていきたい。	
	自分の英語の力を伸ばすために、粘り強く学習したり、よりよい学習の仕方を見つけようとする。	4.0	4.0	小さな達成を重ねる活動を通して、生徒自身が学ぶことへの前向きさを伸ばしていきたい。	
芸術	曲想と音楽の構造や文化・歴史的背景について理解している。音楽を表現するために必要な発声、発音、身体の使用などを身につけている。	4.2	4.0	生徒自身が発声・発音や身体の使用の使い方をより良いものにしていくよう、学びを深められる環境づくりを進めていきたい。	
	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら知覚、感受したところのかわりについて考え、自己のイメージを持って表現している。	4.2	4.0	生徒が自分なりの音楽イメージをもとに表現を広げ、さらに深めていくような学びを促していきたい。	
	自ら進んで、またはクラスの仲間と協力的に音楽の学習活動に取り組もうとしている。	4.2	4.0	生徒が自ら学びに踏み出しやすくなるよう、授業の工夫を積み重ねていきたい。	
家庭	家族・家庭と社会との関わりを理解し、生活を主体的に営むための知識と技術を身につけている。	4.0	4.0	生活体験の少なさをゆえに生徒の生活力(技術力)の低下が否めないが、生徒の自立を促すため、より具体的な基礎基本の知識・技術の定着を図ってほしい。	
	生活の中から問題を見つけ、解決する力をつけている。	4.0	4.0	ホームプロジェクトの実践を通して、生徒が自らの生活を振り返り課題を見つけ、家庭科の学習で得た知識や技術を活かして改善していく力を育てていきたい。	
	よりよい社会をつくるために様々な人々と協働し、課題の解決に主体的に関わることができる。	3.9	4.0	調理実習・保育実習等の活動を通して、他者と協働することでコミュニケーション力を高めるとともに、卒業後に成人として自立した生活ができるようにICTを活用しながら考えさせたい。	
保健	種目のルールや試合の進行などを理解している。	4.2	4.0	授業を履修し、ルールの説明や進行の仕方などを学ばせることができたとと思う。次年度は、どの程度理解しているのかわかるようにしたい。	
	学んだ技能をどのように使えば上達するのか、失敗したときにどうしたら失敗しないようになるのかなどを考えている。	4.2	4.0	授業の中で、失敗を恐れずにどんどんチャレンジさせていき、繰り返しの中で、どのようにすればよいのかを考えられるようICTを活用していきたい。	
	身に付けた技能を他の生徒と共有することや教え合うことができる。	4.2	4.0	個人個人が身に付けたものを他の生徒と共有することができるように、グループやリーダーを決めて教えあえる環境を作りたい。	
総探	自分のこれからの生き方を考える上で必要な知識を身に付け、探究の意義や価値を理解する。	4.3	4.0	課題解決型学習を通じて、工業についての歴史・知識について詳しく学ぶことができた。来年度はさらに工業高校生としての自覚を身につけることができた。	
	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で情報を集め、整理して、まとめ・表現することができる。	4.2	4.0	課題解決型学習を通じて、自分の将来について文章にして表現することができるようになったが、来年度はさらにそれを人前で発表できるようにしたい。	
	自己の進路に関連した課題を設定し、解決法について考え、意欲的に取り組んでいる。	4.1	3.9	課題解決型学習を通じて、工業人として自分のつぎの職業を考えることができた。来年度はさらに、そのためにはどのような進路選択をする必要があるのかを考えられるようにしたい。	
工業	各学科の専門分野の学習や資格取得を通じ知識・技能を身に付ける。	4.2	4.0	多くの生徒が資格取得に挑戦し取り組んでいるが、消極的な生徒も見受けられるので挑戦できる機会を多く提供する。	
	実習や課題研究を通して自ら課題を発見し、解決を図ることができる思考力・判断力・表現力を身につける。	4.2	4.2	課題研究などを利用して、自ら学ぶ姿勢や問題解決能力を育成する授業展開を多く取り入れる。	
	工業人として社会に貢献でき、また人間としての調和がとれている。	4.1	4.1	自己の得意なこと、不足していることを認識させ、人としてあるべき姿を進路活動などの諸活動を通じ機会を多く設けたい。	